

潮風害後のサトウキビ収量低下を抑制する灌水施肥技術

スプリンクラーを利用した液肥散布で、潮風害を受けたサトウキビの収量低下を抑える

研究開発の背景・目的

- ・サトウキビの生産安定に台風や潮風害等の気象災害の被害を最小限にとどめることが必要
- ・春植え栽培では葉の損傷で減収するが、葉損傷後の肥培管理(窒素施肥)で次年度の株出し収量が増加する可能性あり
- ・現在、奄美諸島において畑かんの整備が進んでおり、スプリンクラーなどの多目的利用が可能

研究成果の内容

春植えサトウキビの葉が著しく損傷した場合、スプリンクラーを利用した液肥散布で春植え+株出しの合計収量の低下が抑えられる



- ①春植え生育旺盛期(8月)に葉を切除(潮風害等による葉の裂傷を再現)
- ②尿素を溶かした液肥を準備(尿素11kg/300L/10a, 窒素5kg/10a相当)
- ③動噴のホースを給水栓の防除コックに接続



図 収量調査結果

グラフ内の数字は収量の指数
下段:春植え, 中段:株出し, 上段:2カ年合計

かん水と同時に液肥散布

導入メリット

簡単な肥培管理で潮風害の減収を抑えることが可能

- 高額な設備投資不要
(動力噴霧機の取り付け部品があればOK)
- 煩雑な作業は不要
(圃場に入っただけの肥料散布は行わない)
- 作業時間が短い
(液肥300L/10a注入で約20分, なお, 液肥散布は潮風害後の1回でOK)



期待される効果

サトウキビ生産者の所得安定および地域(各島)における生産量(製糖用原料)の安定確保

鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場園芸土壌研究室

普及対象・範囲
奄美地域のサトウキビ生産農家
(畑かん整備地区)

(県業糖振興協会)